

開講学科 総合デザイン工学科

科目名	デザイン基礎演習Ⅱ	標準対象年次	選択/必修	科目コード	
		1年次	必修	18107201	
担当教員	駒田剛司、杉浦榮	単位数	学期	曜日	時限
		2単位	後期	土曜日	4, 5時限

授業の教育目的・目標

■関連科目との関係

習得期間	建築設計に関する最低限必要な技術・センス・教養を習得する期間						建築家志向のより高度な技術・センス・教養を習得する期間		
	科目名	デザイン基礎演習Ⅰ	デザイン基礎演習Ⅱ	デザインCAD	造形基礎工作	デザイン演習Ⅰ	デザイン演習Ⅱ	デザイン演習Ⅲ	
習得内容	設計・表現技術	一般図・トレース、図面読み取り能力、模型作製、作法、マナー			描画、基礎デザイン	設計過程、一般図、コンセプトメイキング、プレゼン、CAD	設計過程、一般図、コンセプトメイキング、プレゼン、CAD	左記の応用	
	空間・造形センス	線・図形への意識	造形感覚・空間意識			身体感覚・空間意識	建築空間造形	左記の応用	都市への意識
	建築に関する教養	ものづくりに対する心構え	デザインの意味			建築の見方・考え方	建築の価値	新しい建築の在り方	都市と建築の在り方
	設計対象の身近さ					近		遠	
	設計対象の規模					小		大	

デザイン基礎演習Ⅰに続けて行う、図面の描き方を知るための授業。2年次以降に始める設計関連授業で学生自ら設計したものを、図面化する力をつけさせることが主たる目的である。
この授業は、手で図面を描かせる。授業内容は図面と同様にコミュニケーションの手段として重要である建築模型のつくり方についても指導を行う。また、分かり易い表現のために図面自体の構成を考える習慣をつけさせる。

学科の学習・教育目標との関係
・製図及び作図関連の学修を通じて、設計者の構想、デザインを視覚化し自由に表現することのできる技術と能力を養う。

キーワード
設計図、製図、作図、トレース

授業の概要
建築模型の製作をすることで図面以外のコミュニケーション手法を学ぶ。その後再び図面の描き方について指導する。現在の建築物の主要構造システムは木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造の三種類といえる。授業では木造建築物の基本図、詳細図、構造図の描き方について学習する。最後に本棚の設計を行い、図面と模型を用いてプレゼンテーションを行う。

授業の計画	第1回:	建築模型の作成法について解説—作品選び (全担当教員)
	第2回:	模型用図面の作成 (全担当教員)
	第3回:	模型作成 (全担当教員)
	第4回:	プレゼンテーションボード作成法について解説—プレゼンテーションボードの作成 (全担当教員)
	第5回:	木造建築物の基本図の作図法について解説—木造建築物 1/100 平面図の練習Ⅰ (全担当教員)
	第6回:	木造建築物 1/100 平面図の練習Ⅱ (全担当教員)
	第7回:	木造建築物 1/100 平面図の練習Ⅲ (全担当教員)
	第8回:	木造建築物平面詳細図の作図法について解説—1/50 平面詳細図の練習 (全担当教員)
	第9回:	木造建築物構造図の作図法について解説①—基礎伏図、1 階床伏図の練習 (全担当教員)
	第10回:	木造建築物構造図の作図法について解説②—2 階床伏図、小屋伏図の練習 (全担当教員)
	第11回:	木造建築物断面詳細図の作図法について解説—1/30 矩計図の練習Ⅰ (全担当教員)
	第12回:	1/30 矩計図の練習Ⅱ (全担当教員)
	第13回:	本棚の設計—エスキース (全担当教員)
	第14回:	本棚の設計—図面作成 (全担当教員)
	第15回:	本棚の設計—模型作成 (全担当教員)

受講条件・関連科目
デザイン基礎演習Ⅰを履修していること。課題作成のためには全授業出席が前提となる。
関連科目: 造形基礎工作、デザインCAD

授業方法
授業当日の作業内容および作業方法を授業開始時に解説し、それに従い実際に課題作成を行う。担当教員、T.A.が授業時間内、学生各個人に直接指導する。

テキスト・参考書
毎回プリントを配布。Vectorworks を使用することが望ましい。

成績評価
・期末試験(%)・レポート(%)・その他(課題提出物 100%)
・小テスト(%)・受講態度(%)

履修上の注意

授業前半で作業内容の説明をするので授業に遅刻しないこと。

課題の提出期限を必ず守ること。

翌週持参すべき作業用具について指示をするので忘れ物のないようにすること。